

せんだいリポート（再起動）の実施状況について

1 せんだいリポート（再起動）の実施状況について

- (1) 日時：令和5年8月5日(土) 11:00～16:30
- (2) 会場：せんだいメディアテーク 1階 オープンスクエア
- (3) 当日参加者：653名
- (4) 主な内容

【第1部】：市内の取り組み、企みが集結！

ここ数年、主に10代～30代を中心に新たに仙台市内で取り組まれているごみ・環境を主題にした多彩な部活や活動同士の連携促進・活動紹介を目的とし、実演や活動紹介を実施。



会場の様子：親子連れや若者が集った



雑がみ部の工作を視察する郡市長

- ・会場は、家族連れや観光客らでにぎわった。来場者からは「家庭ごみや海のごみなど、さまざまなごみが出ていることを改めて意識した。普段からごみの減量や資源の活用を意識したい。」という声があった。実施後、若手の活動同士で、定期的に資源循環について検討する学習会（オンライングループ）が立ち上がるなどの効果が出ている。

【第2部】トークセッション（対談）

- ・市長による仙台市のプラスチック政策の講話
- ・市と連携して循環型プラスチック製品を展開する先進企業による講話、公開対談



郡市長による講話



公開対談の様子

- ・公開対談では、東北大学大学院環境科学研究科の松八重一代教授をモデレーター（司会）に、各企業の代表者らが、循環型社会について提言した。石川樹脂工業株式会社の石川勤専務からは「資源循環を踏まえた経済活動を、企業がどう仕組み化していくかは難しい。弊社はまだ誰も気づいていない新しいことに挑戦し、それが上手くいって、続く企業が出てくるといいと思っている。」などの意見があった。登壇企業は、その後も全国メディア等に掲載・放映されるなどの動きが出ている。

※現在当日の記録映像は、DVDとしてせんだいメディアテーク2階に収録し貸し出しを行うほか、動画サイトにて公開中。QRコードからご覧ください。



動画

2 連携企画：企業・団体と連携によるワークショップ等の実施状況について



「かほく SDGs 縁日」（河北新報社） 布製バッグ版画刷り講座（無印良品ロフト店） 告知ビジュアル（チラシ）

- (1) 期間：令和5年8月5日（土）～9月3日（日）
- (2) 参加者：7,000名以上（※せんだいリポート、エコフェスタ2023含む）
- (3) 実施企画数：45企画
- (4) 協力団体・企業：63企業・団体

主な協力団体：東北大学環境科学研究科、河北新報社、一般社団法人SDGsとうほく、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 他

- (5) 主な内容
 - ・ファミリー層を主な対象に、「モッタイナイ」を楽しく学べる、体験プログラムやワークショップを集中的に実施。河北新報紙面、河北新報オンライン等で広く告知した。
 - ・来場者の小学生は、「ごみ収集車に色を塗るのが楽しかった」「段ボールもリサイクルで作られていることを知った。もっとリサイクルをしようと思った」と体験の感想を楽しく話していた。